

お知らせ

2月4日(月)

北海道水素地域づくりプラットフォーム平成30年度第2回会合

2018年7月に閣議決定された第5次エネルギー基本計画において、「2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指す」という高い目標達成に向けて「エネルギー転換」を図り、「脱炭素化」への挑戦を進めることが掲げられました。

また、同年9月には北海道胆振東部地震が発生、北海道全域で大規模停電(ブラックアウト)が起こり、改めて道内をはじめ全国でエネルギー安定供給への関心が高まっています。

今回は、日本のエネルギー研究を牽引されておられる北海道大学大学院情報科学研究科教授 北裕幸氏を講師にお招きし、エネルギーが転換期を迎えている中、再生可能エネルギーが豊富に賦存する北海道において、電力の安定供給に向けて多様なエネルギー源をどのように利用すべきかといった供給側・需要者側から見た課題や我々が今取り組むべきことを講演いただきます。

●場 所 グランドホテルニュー王子 3階「グランドホール」
(苫小牧市表町4丁目3-1)

●時 間 16:00~18:10(開場15:30)

基調講演 「電力の安定供給と再生可能エネルギー」

北海道大学大学院情報科学研究科・

研究科長・教授 北 裕幸氏

講 演 「水素スマートシティ神戸構想の推進」

神戸市環境局環境政策部環境貢献都市課

エネルギー利活用担当課長 南部 法行氏

※詳細は当プラットフォームウェブサイトをご覧ください。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/ud49g7000000j71v.html>

※傍聴を希望される方は、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

問い合わせ/北海道開発局 開発連携推進課

TEL 011-709-2311(内線5417)

2月28日(木)

シンポジウム「守れ!北海道の『生産空間』~地域が存続していくために今何が必要か~」

プログラム(予定)

特別講演 株式会社セコマ代表取締役社長 丸谷 智保氏

基調講演 日本大学特任教授・国土審議会委員 石田 東生氏

取組報告 国土交通省北海道開発局

パネルディスカッション

「人口減少が進む中、地域が生き残り、食・観光などの強みを維持し続けるため、今どのような取組が必要か?」

日本大学特任教授・国土審議会委員 石田 東生氏

(一社)北海道総合研究調査会理事長 五十嵐 智嘉子氏

帯広信用金庫地域経済振興部長 秋元 和夫氏

しりべし女子会会長 池本 美紀氏

名寄商工会議所会頭 藤田 健慈氏

●場 所 札幌市教育文化会館 小ホール

(札幌市中央区北1条西13丁目)

●時 間 13:00~16:30

●参加費 無料(要事前申込)

※申込メールアドレス:hkd-ky-kukansympo@mlit.go.jp

問い合わせ/北海道開発局 開発調査課

TEL 011-709-2311(内線5440、5541)

2月18日(月)~21日(木)

第62回北海道開発技術研究発表会

2月18日(月) 基調講演

14:00~15:00 札幌第1合同庁舎 2階講堂

「豪雨と地震による北海道の近年の地盤災害から学ぶ将来への提言」石川 達也氏(北海道大学公共政策大学院教授)

※詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/jg/gijyutu/splaat000001evcw.html>

問い合わせ/北海道開発局事業振興部技術管理課

TEL 011-709-2311(内線5489)

国営滝野すずらん丘陵公園

2月2日(土)・3日(日)

滝野スノーフェスティバル

雪遊び体験やスポーツ体験など盛りだくさんな大規模イベントです。2日の夜には約1,500発の花火の打ち上げもあります。

●参加費 無料(駐車料金は別途)

●場 所 つどいの森

●時 間 2日 10:00~18:30、3日 10:00~15:00

※2日の花火が順延の場合は3日。時間も18時まで変更します。

※詳細は当公園ホームページ(URL:<http://www.takinopark.com/>)をご覧ください。

※お問い合わせ/北海道開発局事業振興部技術管理課
までお問い合わせください。



研究所だより



石狩川治水の一環の北村遊水地は土地の重層的利用の面でコモンズに当たるという観点から、当協会の環境コモンズ研究会が静かにフォローしています。過酷な開拓を経て土地への愛着も強いはずの農家の方々が、地役権を設定する遊水地の仕組みに賛同を得るまでどのような葛藤があったのかなど、昨年雪の降りだすころ北村にお邪魔して年配の方々にお聞きしました。「古老は土地の生き字引」。さすがに自らの先祖とのつながりとともにコミュニティ意識も堅固で、歴史にもお詳しい。950haの遊水地事業の受益者は札幌などの下流の市民ですが、中流の北村エリアでは、コツコツ営々と産官学と農家と一緒に「食の北海道」を実現させる地味だが壮大な実験が進む。北海道150年の北村に、梅田安治先生がおっしゃる農業と農村がともに栄える光景(「開発こうほう」2018年5月号)を見る気がします。(草苺)

●「開発こうほう」へご意見・ご感想をお寄せください。

(一財)北海道開発協会広報研修出版部

〒001-0011

札幌市北区北11条西2丁目セントラル札幌北ビル

電話 011(709)5212

e-mail:pr@hkk.or.jp

●「開発こうほう」は、北海道開発協会のホームページでもご覧いただけます。

●(一財)北海道開発協会では、賛助会員を募集しています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

開発こうほう 第667号 平成31年1月25日発行

発行 (一財)北海道開発協会

印刷 (株)須田製版 不許複製

<http://www.hkk.or.jp/>

本誌は再生紙を使用しております。